

さかえ

十一月号



栄村公民館

資料提供：花開孚夫氏（つくば市金田）
編集：木村 滋

秋の三日月堂

—— 栄村十景 ——

三日月堂 その名は古く寛永の昔に残されてゐるのであるが、後世それが記録の逸散して、その由緒沿革の詳かにすべき術のないのは洵に口惜しき極みである。想ふに吉瀬の部落が、今はさ、やかな一石の宝殿にその名残を止めてゐる。白金、黄金、両神社のほとりから、現在の位置に移り住んだ頃の建立でもあつたらうか。今は昔お堀の坂と呼ばれた急坂を前にし、弁天様の祭られた東池「通称三日月池」を背景として、月読命を祭つたこの堂宇こそ、月に泣き、月に喜ぶ人の情けをそのまゝに象つた好個の場所とも言はれやう。げに遠い昔から幾多の善男善女が、胸に秘めた願をこめて、この御堂の前に頼つたことであらう。

堂宇を廻る一連の風景は、春夏秋冬、それぞれの趣きを変えて、人の心を潤すものがあるが、特に那み行く秋に色づく雑木の森の紅葉が、澄み渡る秋の陽をうけて真嵐生え茂る池水に映ゆる風情こそ、人をして無限の情趣をそゝらせるものがある。

菊地民雄

創刊一週年紀念号 目次

表紙 栄村十景 秋の三日月堂 画伯 浦田 正夫	題字 副館長 藤沢勸兵衛
扉 解説 弘報委員 菊地 民雄	
創刊一週年を祝して 一、栄音頭大会 七	
世論調査 二、楽団演奏 七	
農事講演映画会 三、二十の扉 とんち教室 八	
農産物品評会 三、栄小唄と踊り 九	
水稻品種別展示会 三、万々渡甚の会 九	
料理講習展示会 四、農機農具展示会 九	
活花展示会 四、小学校から 九	
体育大会 五、中学校だより 一〇	
小中学校展覧会 五、人事消息 一三	
保健相談 六、婦人会の動き 一四	
短歌会 俳句会 六、西部民生部会総会 一六	
開基将棋会 六、農業委員会の発足 一六	
写真撮影会 六、固定資産家屋の評価 一八	
ポスター展示会 六、電話室 二一	
子供会の歌発表会 七、白菜荷造規格表 二二	



創刊一週年を祝して

飯島 吉 堯

広報「さかえ」が発行されて第一ヶ年。その益々すこやかな生長を見せて居ります事は、村民各位と共に喜びに堪えない処であります。

申すまでもなく弘報活動は、公民館運動の中心であり推進力であつて言葉を換えて言えば公民館運動が盛んであると言う事は、広報活動が盛んであると申しても過言ではないのであります。

広報活動と一口に言つてゆゑには色々な方法があつて文書に依るもの。視覚によるもの、聴覚の法によるもの等々あるが、其の中心となるものは何と申しましてゆゑ、文書に依る広報活動が一番重要である事は申すまでもないと思ふ。

公民館活動は、我々村民自身の運動であり、しかも村民各自が総合された運動であつて村民を離れて運動は無いのである。と言う観点から弘報活動は常に村内の状況を良く知り、正しく報道するとともに、よく村

民の動向をつかみ将来に向つて正しく指導し、しかもなほ建設的でなければならぬ。

広報「さかえ」はこう言ふ意味から申してその任務を良く果して居ると申されましよう。その原因は色々あらうけれども、それは村民各位の協力は勿論であるが、担当者即ち広報委員の方々がよく其の使命を認識し献身的に活動せられてゐるに依るものである。

今後は尚一層の研究をつまれば、公民館運動の遂に、その使命に向つて邁進せられんことを切にお願ひする次第である。尚此の機会に二三の点につき皆様方にお礼と御報告を申し上げたい。

御精力を得多大の御寄附をいただいた図書ゆゑ、予期以上の成績を得て、目下その整理中でありませう。出来るだけ新刊書を補充し、近日中に開館致したいと存じます。どうぞを御利用の程お願い致します。尚将来は巡回文庫として、各部落にも出張貸出し度いと願ひます。

次に此の冬予定されて居る青年学級は、郷土に即した、しかも対象である青年の希望を参酌して、開設する予定で居ります。皆様方の御協力の程お願い致す次第であります。

昭和廿六年度文化祭

時 九月二十日
主催 公民館

青年会の手から公民館の主権に移されてから 第二回目の文化祭は去る九月廿三日、初秋の好天氣に恵まれて活発に開催された。村営グラウンドの開場祝賀や子供会の歌発表会を兼ねた雄大なスケールのものと、編成された三十数種目の行事は、午前午後祝賀の三部にわたり、六個所の会場に於てそれぞれ、滞滞なく展開されて行つた。特に本年度は、経費と労力の節約を立前として創意工夫が凝らされ、真に地についた。即ち村の在り方行き方に相応しい内容が織り込まれ、文化祭の動向に一つの示唆と轉換の指針を与へた点、事実以上に意義深きものがあつた。

村の総力を結集したこの行事を、慎重に反省し、更に飛躍を期して明年の参考に資したいと思ふ。

紙面の関係、詳細にわたつて記述することは出来ませんが、以下行事の概要を集録して、本号「さかえ」を文化祭特輯号に当てることにした。

世論調査

企画部

一、学校問題

- 1 小学校と中学校を併設して置いてよいかどうか
一現在のみ、でよい 二七五
- 口小中別に分離した方がよい 一七五
- 八わからぬ 三七
- 二無解答 三

2 運動会の開催期日について

- 1 従来通り十一月三日がよい 二一四
- 口改めて十月中旬にする 二五九
- 八わからぬ 一五
- 二無解答 三

二、農地改良について

- 1 農道を改修した方がよいか、どうか
- 口改修したい 三〇五
- 口現在のままでよい 一二九
- 八わからぬ 四二
- 二無解答 一五
- 2 灌漑排水について

- 1 深井戸を設けたい 一九三
- 口桜川の水を利用したい 二五九
- 八わからない 六九
- 二無解答 二四

3 耕地整理について

- イ耕地整理したい 一七六
- 口現在のまゝでよい 二二四
- 八わからない 六九
- 二無解答 二二

註 調査の対象とした戸数四九一戸、

農事講習会

産業部

日時 九月十九日午後二時
会場 公民館ホール

講師 茨城県立農大教授 室島先生
演題 現下の化学肥料について
備考

(3) 当日は午前中、村内の耕地状況を視察し、土壌を調査の上、実際に即した施肥基準等につき指導を行ふ予定の処、雨天の為講義演のみに終つた事は遺憾であつた

農事映画会

産業部

日時 九月廿一日午後七時

会場 古米分館

司会 栄農青連

映画 茨城指導巡回班
画面 稲の一生 大豆の一生 悲恋草

農作物品評会

農青連

会場 中学校

- 品種 大豆一七点 黒大豆一点 小豆五点
点数 菜豆一点 金時一点 胡瓜一点 南瓜二点
王蜀黍二点 ハツ頭一点 牛蒡五点 葱三点
人参三点 生姜一点 粟一点 胡麻一点
茄子五点 大黍二点 青刈大豆二点
出品者 上境八名 中根一名 松塚六名 大八名
金田十一名 古米八名 吉瀬九名

水稻品種別展示会

農青連

会場 公民館正面表通り

(4)

品種 各一株づつ 二〇種類

- 農林一号 利根早生(農林五五号関東四一号)
- 神種 東山四八号 北関東二五号 無芒愛園
- 農林四八号 農林二九号 農林二五号 八州千本
- 農林三五号 農林三六号 農林八号 太郎兵衛糯
- 埼玉五号糯 旭 陸稻農林七号 同農林二六号
- ビルマ糯二点

農事ポスター展示

農青連

会場 公民館ホールの内壁面

図表 1.昭和廿五年度白菜生産費調査表 口昭和廿六年ト
年トマト生産費調査表二点 八昭和廿六年度ト
マト日別出荷表及品種別価格表 二水稲品種別
特性表 水苧類特性表 へ税金の変動表
ト農産物価格高低表

研究 農林二九号生態調査発表 大支部 軽部芳男

料理講習会

婦人会

日時 九月二十二日午前八時より午後六時
会場 公民館

講師 生活文化研究所長 四十九院橋樓先生

- 種目、 寿司ちらし寿司 炒めし 肉入オムレット
揚げもの サラダ各種 王子煮練 寄せ王子
支那風焼芋 栗鹿の子 炸花餅 三色羹、
アドーゼリー クレープゼリー 以上十二種
参加者 上境二名 中根一名 土器屋七名 松塚六名
大八名 古米五名 金田一名 中学校一名
中学女生徒二七名 計五八名

料理展示会

婦人会

会場 公民館

品目点数 ちらし寿司一点 炒飯二点 オムレット一点
サラダ一点 王子煮練り一点 栗鹿の子一点
支那風焼芋二点 三色羹二点 クレープゼリー一
接待 廿三日米質用書食料理参加人員 三三名

活花展示会

婦人会

会場 公民館

出品 池坊流 八点 みしよ流一点
新生活モデル活花展として有合せの草木を用いた。

体育大会

保健体育部

会場 新設村営グラウンド

種目

- 一、各種団体リレー 出場チーム 十一チーム
- 青年会 石岡一高 学校、役場 PTA 農協
- 組、商工会 消防団 郵便局 村議会
- 農委会
- 一、バレー 出場チーム 二チーム
- 女子青年、中学校
- 一、卓球 出場チーム、七チーム
- 松塚、金田 中根 土器屋 古米、大、学校
- 一、臍なし競争 三組
- 参加人員 五〇名
- 一、部落対抗リレー 出場チーム 十チーム参加
- 金田 中根 松塚 古米 土器屋 横町 上境
- 吉瀬 土器屋二、大
- 一、米質競争 敬老会の王手箱
- 一、隣接中学バレー大会 九重 斗利出 藤沢
- 一、柔道 米米道研究会員参加

小中学校展覧会

小中学校

小中学校展覧会についてお知らせします。

小学校 出品数 入選数 中学校出品 入選数

図画	三七〇	七三		一七四	二九
習字	一五〇	三〇		一四三	一四
工作	一八〇	三五			
手芸	四五	六		七八	一二
標本				一〇四	三八
計	七四五	一四四		四九九	九三

以上の出品物の傾向を見る時、夏季休暇中の研究がよく表現され、独創的なものが多くなつた事は大変喜ばしい事でありませう。女生の手芸類には、例年にみられなかつた異彩を持つ独創的な、しかも長時間の研究と熱意を要する作品が多数出品され観客に深い感銘を与えて居ります。新様に總ての作品を通じて、個性と熱意研究の結果がよく表現されて居り、文化展覧会の意義を高め、一段と彩を放つ事の出来た事を喜び、今後益々斯道御推奨下さらん事をお願いする次第であります。

保健相談

保健体育部

(6)

- 会場 公民館階上座敷
- 医師 岡田 久、中村千枝 永田常吉 大津武雄
- 保健婦 比岡とく
- 受診者 一般村民

短歌会

教養部

- 会場 栄中学校
- 司会 栄村短歌会 選者 大久保月夜外五名
- 出席者 十五名、村外米賣 齊藤巖 鈴木三雄
- 出詠数 兼題秋雜詠 四十首 作品掲載消略す。
- 入賞、 一等飯野忠雄 二等酒井榮泉 三等沼尻教子
- 四等大久保きくの 五等大山文子

俳句会

教養部

- 会場 栄中学校
- 司会 栄村俳句会
- 出席者 二十名
- 送者 秋元虚受 根崎梧樓 植野春風 永田晋雪

酒井雪花

課題 秋晴 コスモス 当季雜詠各二首づつ

席題 雁来紅、当季雜詠三句吐

入賞、 一等酒井隆 二等飯島峰雪三等柴原松翠

四等より十五等まで省略

囲碁将棋会

教養部

- 会場 増山重信商店
- 主催 栄将棋会
- 参加者及成績 二十七名、一等米栖勇平 二等沼尻讓
- 沼尻万年、増山鉄五郎 三等増山重信外八名

写真撮影会

教養部

- 場所 効外
- モデル 風景、行事 其他隨意
- 参加人員 二十名
- 作品 後日公民館に於て展示公開の予定

ポスター展示会

企画部

- 会場 公民館大ホール壁面

種類、一 民生関係 保健衛生関係其他一二〇点
提供先 新治郡地方事ム所民生課

子供会の歌発表会

子供会連合会

会場 公民館大ホール
発表 子供会合唱団八十名
指揮 中学校野口省三
作曲 細田義勝先生
作詞 猪俣三郎 大久保四郎三郎 赤塚世憲子
沼尻虎重郎 近藤久弥
曲目、一、みんなあつまろ。二、そよそよ春風 三、平和の鐘 四、昇る朝日 五、四季の栄村

栄音頭大会

青年会

会場 小学校庭
橋 高さ二間
太鼓 青年会員
歌手 久保田浩一 渡辺好枝 久保田秀次郎 其他
参加 青年会男女 百五十名 他一般村民
時間 芸能大会の序幕として時半より約一時間

楽団演奏

青年会

会場 校庭舞台
一、ホワイトローズ
司会 中島勲 ギター根本多喜男 五頭昭五頭枝南
樂手 横田直一 ウイオリン軽沢忠直
歌手 上方章 根本和明 上方いく 軽沢美智子
一、タンゴバンド ラツキースター
司会 久保田定一
樂手 ウイオリン宮本文夫 八江忠夫、ギター宮本明、伊藤清一
歌手 久保田仁 久保田和夫 沼尻一雄 久保田益男、久保田秀次郎
一、みどり
司会 木村隆
樂手、ドラム増山敏夫 ウイオリン宮本文雄 入江忠夫 マンドリン沼尻行 ギター宮本明 伊藤清一 飯島武 ※中沢良夫、渡辺好枝
歌手、久保田浩一、金村秀夫 片岡繁 酒井良夫 高梨己兵一 平島秀夫、市村寅雄 飯島道夫※

(8)

二十の扉

青年会

会場 校庭舞台
司会者、文化部副部長
電燈係 豊島清栄、酒井清
鐘係 久保田浩
ホスター係 鷹巣志す、宮本良枝 大久保照子 室町菊乃
記録係 久松久雄
解答者 村長飯島吉克 農協組合長久松茂 弘報委員
長大久保四郎三郎 米中教頭市村芳男 栄小
学校長根本養三、米中教諭野口省三、PTA
会長酒井きよ 保健婦片岡とく
出題 1植物 日の丸 2動物 朝霞坊 3植物 釣物
松塚の仁王様 4植物 釣物 おじや 5動物 白菜
の根切虫 6植物 釣物 栄公民館 7植物 ベトナム
マト 9動物 牛の鼻かん 10植物 釣物 常陸米の
駅 8釣物 眼の前のマイク 11動物 釣物植物組
合の一号車
【註】十一問中九問を解(4、10の二問は鐘)

とんち教室

弘報委員会

会場 校庭舞台
司会 弘報委員長
先生 大久保四郎三郎
生徒 助役酒井嘉幸 民生委員久松信一 副館長藤
沢勤兵衛 子供会後援会長岡田久、商工会長
猪俣寅吉 栄小学校長根本養三 国保主任飯
島忠之助 婦人会支部長片岡ちやう、農協委
員酒井江市 PTA会長酒井きよ
問題
一、肩かけ、いのろのろと、ロつまづいて
二、謎々、イサイレンとかけて、ロ、一級酒とかけて
三、ゆのはすけ、「放つて置けないものは
四、川柳 「はげ頭」
五、語呂合せ、「霧のか、らぬ山はない」
六、何のやうですか、イ、「出べそ」ロ、「酔っぱらい」
【註】一夜限りの一流芸能人となつた十名の生徒たちは
拍手と爆笑の嵐に迎えられて、破顔の表情にユー
モアを放つて、各々の特徴を發揮した。



学校通信

小学校から

二期の大仕事である運動会も好天に恵まれ、村民の皆様御協力によりまして、極めて盛大に開催出来ました事は誠に喜びに堪えません。改めて厚く御礼申上げます。来年度は更に指導の万全を期しまして一段と見えたえのある成績をお見せ出来るよう努力して参りたいと存じます。また御子様方待望の高学年遠足の終りましたので、いよいよこの十一月はじっくり腰をすえて学習面の向上につとめる考であります。

次に十一月の主な行事やその他についてお知らせ申上げ皆様御支援を願います。

新任中沢富美先生

五月の中は三年一組担任の大塚先生が御病気で休まれてから今日まで、後任の先生のおいでを毎日お待ちしていたのですが、この度新治出張所長さんの特別の御配慮によりまして、九月十六日付で中沢先生の御赴任を願うことが出来ましたことは、学校としてゆま

た御子様方としてもこの上ない喜びであります。先生はお若い御健康な方ですので今後の御活躍を心から期待し、共々に本校教育の進展に努力して参りたいと存じます。

茨城県代表 健康優良児沼尻美知子さん

去る九月二十八日、本校六年生沼尻美知子さん(上境)が健康優良児、茨城県代表に選ばれた旨の通知に接しました。栄校の代表として内申してはみたものの県下の優秀な選手にまじつては入選も覚つかない事だろうと余り期待しておらなかつたが、この素晴らしい知らせは学校をあげて驚きと喜びの渦に投げ込まれた感じでした。誠にこの様な心身ともに県代表第二位に選ばれた美知子さんを出したとゆう事は、御家庭の喜びは勿論のこと、この上もない本校の名誉でもあり誇りでもあります。来年度も、来々年度も引き続きこの栄冠を本校の上に掲げたいゆの念願して止みません。

実験学校研究会

十一月三十日、実験学校としての研究会を開くことになりました。研究の主題は学校図書館の運営で、

本校の図書館を兼校に郡内各校の先生方と研究するわけです。郡市の学校は別として郡部小中学校には希にみる沢山の蔵書をもつ本校として、こうした研究を積むことは私ども職員の皆様に対する責任でもありますので、この集会までには更に一層の努力を拂いまして充実した経営をしていきたいと意気込んでいます。

学校購買部からのお願

毎週 月曜 木曜の二回始業前三十分開いている購買部の仕事もすつかり馴れて順調な経営ぶりを見せているので、必要に応じて直に材料が入手出来るので感謝しております。然し事、金銭に関する仕事ですから、係としても充分心を配り、間違いのないよういたす考ですが御家庭でも、御不審の点や改善すべき点でもありました際は何かと御連絡下さいます様御協力をお願いいたします。尚購入法については、過日印刷物を差上げ購入帳にお渡しして皆様の保管を願いました。が、中には御子様自由を持ち歩いて親さんの許しを得ないで購入している様なむきも、見受けまますから、その点御指導を願います。

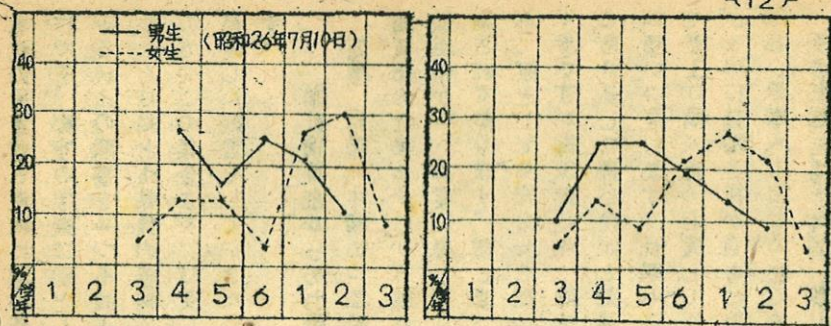
(鷹巣記)

中学校だより

学力低下の実態とその対策

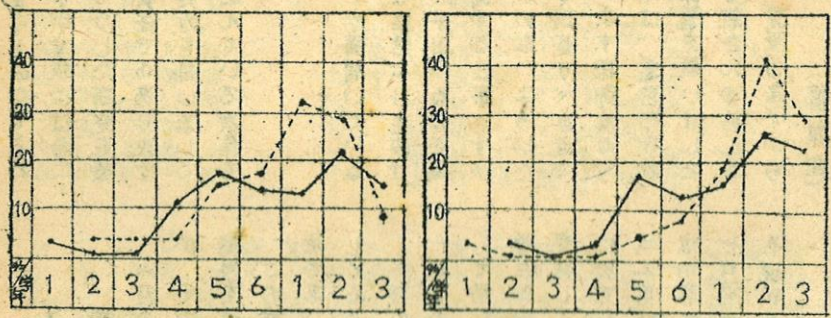
八月の教育特輯号にこの問題の概要を申し上げましたが、その後國語、数学の能力診断標準検査を行いその結果を得ましたので、図表化してお知らせ致します。

この検査は学校独自のものとなく、全国的標準検査法であつて、その結果による驚くべき低下の実態を示してゐるのであります。この図表は左の数字は%を示して居たならば、それは中学一年生でありながら、小学三年の能力しか持たないものが一〇あると言う事を意味して居ります。学年男女別の平均を見ると、國語に於ては、一年男は小学五年二月、女は中学一年五月、二年男は中学二年九月、女は中学二年四月程度、三年男は中学一年八月、女は中学二年十月程度となつて居り七月現在からみると中三男は一年十一月も遅れている現状であります。左図をよく御覽下さい。



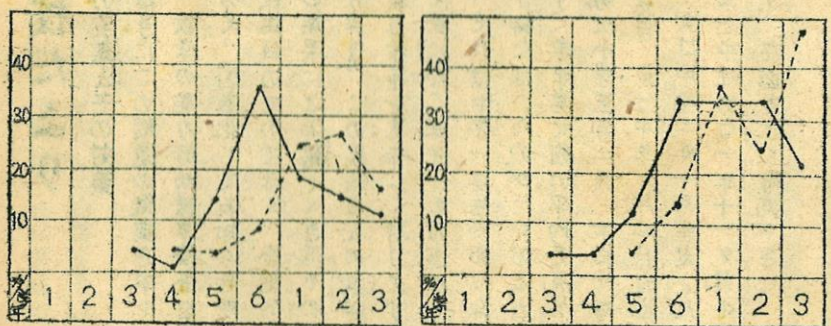
一年数学 平均 男 小学六年五月 女 中学一年五月

一年国語 平均 男 小学五年二月 女 中学一年五月



二年数学 平均 男 小学六年三月 女 小学六年三月

二年国語 平均 男 中学一年九月 女 中学二年四月



三年数学 平均 男 小学六年三月 女 中学一年一月

三年国語 平均 男 中学一年八月 女 中学二年十月

人事消息 (九月分)

戸籍係

この様に、国語数数学の基礎学科に於て、一年或は二年近くも遅れて居る事は如何なる原因によるものと、誠に残念な事でもあります。基礎学力が乏しくてどうして応用が出来ようか。基礎を体得し得ず、千変万化さまりない社会に立つて、円満なる社会生活を営む事も困難であり、益々将来への不安を感ぜざるを得ません。その対策として学校としては次の様に計画を立て実施して居りますが、單に学校のみが如何に鞭打つても目的を達することは尙遠慮であつて、御家庭の協力を切望する次第であります。

学校としては、数学、国語、珠算の三科目を毎朝三十分、放課後に一時間程度基礎練習の時間として全般的指導をして居ります。数学は小学校六年までの程度のもの、初級篇として各自に持たせ、国語は教育漢字八百八拾一字の読み方、書き方、応用及び現代かなづかいの問題を与へて、段階的に指導し、一定期間をおいて一斉テストを行い八十点以上をとつた者が次の段階へ進む様になつて居ります。燈火親しむ好季節ですから夜二時間位は家庭で学習する習慣をつける様御指導下さるを切にお願い致します。

婚姻の部

出生の部	生年月日	氏名	大字	父	母	続柄
九一六	中根美津枝	土屋屋	善四郎	あき	四女	
九二二	銭谷 文江	〃	〃	健治	長女	
九二二	沼尻 和己	金田	敏雄	美知子	長男	
九一三	沼尻 邦彦	〃	〃	義治	徳子	長男
八、三	菊地富美江	古米	秀男	静江	二女	
大字	氏名	配偶者氏名	備考			
上境	酒井志恵子	沢辺 実	北條町大字北條へ			
〃	上野 勝夫	大津みち子	九重村大字花室より			
松塚	久保田定一	飯田 光子	九重村大字大角豆より			
横町	片岡 千奈	佐野 壽子	三重県津市阿瀬町津興			
大	酒井 実	酒井 みち	土浦市大字飯田へ			
金田	市村 延好	浅野すみい	稲敷郡朝日村大字上長より			
〃	中野 さん	尾見 孝	大穰村大字若森へ			
吉瀬	五頭美代子	倉田 弘	栗原村大字栗原へ			

死亡の部

死亡月日	氏名	年令	大字	筆頭者との続柄
八、三一	豊崎長一郎	六二	古来	本人
九、二	平島はる	二四	中根	正男妻
九、一八	久保田まよ	二七	松塚	隆助二女
九、一九	中根美津枝	〇	土器屋	善四郎四女
九、一九	沼尻雄平	六九	金田	本人

分籍の部

大字	氏名	分籍の場所	備考
土器屋	飯島時茂	新治郡栗原村大字栗原	家族五名
横町	沼尻富美子	新治郡下大津村大字加茂	正長女

九月廿九日 村議会議決事項

- 一、堤塘敷占用並工作物設置願に就て、中根、松塚分
- 二、町村税賦課徴収條例一部改正について
- 三、町村税賦課徴収條例中臨時特別に關する條例に就て
- 四、一村村固定資産税評価審査委員会條例について
- 五、固定資産評価審査委員会委員選任に就き同意の件
- 六、昭和廿六年度米村國民健康保険特別會計歳出入追加更正予算について



婦人会の動き

一、日本赤十字奉仕団の結成

昭和二十六年八月二十六日左記の通り日本赤十字奉仕団の結成をしました。

- 一、上境支部……会員三五(男二九、女六)
 - 二、中根……二四(男一四、女一〇)
 - 三、土器屋……四〇(男二四、女一六)
 - 四、松塚……二〇(男四、女一六)
 - 五、横町……一(男九、女二)
 - 六、金田……五五(男三六、女一九)
 - 七、古来……二一(男九、女一二)
 - 八、吉瀬……二〇(男一〇、女一〇)
 - 九、大……二〇(男六、女一四)
 - 計……二四六(男一四六、女一〇〇)
 - 内医師四 齒科医一 保健婦一
 - 二、敬老会
- 本年度より九月十五日から二十一日まで一週間」と

しよりの日」が設定されまして、敬老慰安等の福祉運動を行う事になりましたので婦人会金田支部にて左記の様に七十以上を老人を招待して敬老会を開催いたしました。

期日 九月十七日午後一時三十分から五時五十分
会場 金田八坂神社内

催し 長老敬愛の話(菊地先生) 自后一時三十分
舞踊(花柳美代先生外二名)
日本舞踊数番……五時五十分まで

当日は七十以上の老人二九名来会、贈物として紅白菓子、其の他茶菓子差上げ、また婦人会役員がそれぞれ手製の御馳走を持ち寄り老人の方と一緒に頂きながら踊を観覧するなど初秋の暖かな日和の中に来会の老人は欲を盡し、夕日が西山に傾く頃非常に満足されて帰られました。

三、昭和廿六年度共同募金

米村目標額 四二、六二七円
九月三十日出来高 四三、二〇一円
超過額 五七四円

内訳

順位	字名	目標額	出来高	超過額	減
一	上境	四六〇〇	四六二〇	二〇	
二	中根	六九一〇	七〇六〇	一五〇	
三	土器屋	六九一〇	七一一五	二〇五	
四	松塚	三五三〇	三五三〇		
五	大	四七六〇	五〇〇〇	二四〇	
六	横町	二一五〇	一九三〇	二二〇	
七	金田	五九〇〇	六三八〇	四八〇	
八	古来	三八四〇	三八四六	六	
九	吉瀬	四〇二七	三七二〇	三〇七	
計		四三、六二七	四三、二〇一	五二七	

皆様の御協力により郡下第一位を以つて、九月三十日完納する事が出来ました事を深く感謝いたします。

二 題 習 講

八月五日 金田地内團場で、カール使用研究
研究会が催された。指導者本橋一男氏 作問
作業 葱溝堀
十月十七、十八日 金田及古来地内團場で、
畑肥料及カスチ使用の講習会を開く
何れも産業部主催

西部民生部会総会



十月五日西部地方民生部会秋季總會を、公民館に於て開催した。雨天に拘らず委員の出席三十六名、地方事務所から大塚民生課長、住田児童福祉司顧問其他の来賓あり、午前九時五十分型の如く開会、新任者紹介部会長の挨拶あり、民生課長の生活保護法の改正点、又住田福祉司には児童福祉法の活用につき詳細の解説があり、引続き議事に入り、数項の協議事項を審議決定し尚退職者に記念品を送り、十一時十分より、童心園教育部長木村先生の青少年不良化の原因並に之に對する教誨の方法、一般家庭に於ける注意すべき事項等詳しい講演があり、有意義の裡に十三時總會を終了した。

晝食後 中小学校の図書室の見学、子供会の歌に聞き入り只感嘆の声のみ、十四時より懇談会にうつり、観衆のうちに米村婦人会有志による、栄音頭小唄の唄と踊りの紹介あり、霧々裡に十六時意義深き總會は全く閉じられた。
(久松委員)

農業委員会の発足に当りて

農業委員長 藤沢 勘兵衛

敗戦日本から独立日本へと確かに講和後の日本の前途は氣分的には明るいかも知れませんが他方面よりながめた場合、はたして手放しで樂觀でできるでしょうか、独り立ちには治安関係の増強ひいては再軍備問題と國民の負担は大きい。まさに喜びも苦しみもこれからと思われまふ。

新生日本のスタート、誠にめまぐるしい状況下勢いの趣く処、吾々農村に相当地悲觀的なものが大中に流れ来る事を覚悟しなければならんと思いますが、この悲觀的な部分を克服し、尚且つ吾々農村にいかなる風が吹かうとも是等を逆に押返す力を育くむものが、此度び制定せられた農業委員会制かとも考へられます。

國家はさきに我が國農村民主化と農業生産力発展の障碍を取り除く急の画期的な農地改革を実施し、三百万戸を越える自作農の創設を行ひ、この事業も漸く完成せられました、真にこの事業の成果を確保する為

めには、農業生産の発展及び経営の合理化を促進し、以て、農民の地位の向上を計ることが不可欠であると確信いたします。

尚農民の積極的な意欲と主体性を持った活動と協力を要望してゐる様であります。とりも直さず農業の施策を「下部」からの施策に切換へる事が根本問題であり農民の声を都道府県或は市町村の行ふ農業行政の上にも反映させる為の組織が必要となり、従来農民の代表機関としてこの農地農調又は、改良委員会その他種々な農業団体は、それぞれ民主的な機関として積極的に活動せられある成果も非常に大きかつたのであります。時の流れと所掌事務の性質から或は分量の面が相当変わつて参り、範囲もそれそれ限定され相互に関連を持ちません。今、全体としての再検討が加へられ農業経営の総合的な代表機関としての実を上げる為の組織を簡素化し、機能の総合性を与へ真に民主的な農民全体の為の組織体が、農業委員会の発足となつたことと考へられます。右の様な主旨に発足した委員会委員として、選任せられ、而も会長の席まで預り、その責務の重大なるを思えば全くの素人然かの浅学斐々の身を以てし

ては五里霧中何から手を出して宜いやら、すつかり泥鰌の状態であります。甚だ虫のよい話ではありませんが、村当局は勿論村内各種団体村民各位からの御援助の御援助により、任期中の責を完うしたい念願でありますから、是非共宜敷しく御願ひ申上げる次第です。

尚紙面の都合もあることと存じますので御参考迄に委員会の仕事と骨領の概略を左に述べてみましょう。

一、執行機関としての所掌事務

自作農の創設及維持 農地等の利用調整 農地の交換分合、等の事務

二、諮問機関としての所掌事務

主要食糧の供出関係 農業綜合計画に關する事務

土地の生産條件の整備計画、農業技術の改良計画、生産の処理計画 農業経営の合理化生活の向上改善等

三、事務処理要領

市町村——計画の樹立に關する事務的事項、計画の樹立に關する技術的事項

例 関係団体市町村県地方及び地区等関係機関との連絡等

市町村農業委員会——計画に関する意見の答申建議
に関する事務的事項

例、部落協議会 村民大会等に依る討議或は建議事項等

地方及地区——地方事務所改良相談所 土地改良事務所

例 県及地区内又は市町村その他の関係団体等の連絡

其他農業協同組合並に農業共済組合等の連絡 等

中学校十一月行事予定

十一月九日 校内研究会

講師 茨城大学教授大谷時中先生

県指導主事 鈴木茂乃夫先生

研究内容 学校図書館の運営について 社会科国語

科方面学習指導法について

十一月廿日 実験学校研究発表会

発表内容 学校図書館の運営と利用について

職業家庭科の指導法について

実験学校として歩んだ二年間の結果発表

固定 家屋の評価について

固定資産評価委員 沼尻 弘

シヨーフ博士の勧告により、地方税法に根本的大改革が断行せられ、その結果の一つとして市町村財政の重要財源として固定資産税が創設せられたことは、皆様の即ち御承知の通りであります。

この課税客体の一つである、家屋の評価について、こゝにその方法の概要を申し上げ、深く御理解を戴くと共に、また皆様の方に於ては、各自その家屋に付て一応評価を試みて戴きたいと思ふのであります。

評価の対象たる家屋は、民法上の不動産たる建物であつて、土地に定着して建築された工作物であります。従つて土木工事等のために、一時的に建てられた飯場の如きは、不動産とは言ひ難いので其の対象とはならないのであります。又課税の客体たる家屋は、家屋台帳法の定むる所によつて台帳に登録され、不動産登記法によつて登記をなし得る建物、即ち、住家、店舗

工場、倉庫 その他の建物であり、法令の定むる所に
より除外されるものを除いた一切の家屋であります。

家屋台帳法第三條には「家屋には、一個ごとに家屋
番号を符し、その床面積を定める。前項の場合に於い
て附屋家屋があるときは、これを合はせたるものをも
つて一箇の家屋とみなす」と規定されて居ります。こ
れは前に住家、店舗等と書きましたが、その住家とか
店舗とかはこれに附屋してその利用効果を補充するた
めに建て、ある、倉庫、納屋、蚕室、浴場、便所、木
小屋等を総称した一つの名称であり、家屋の分類は
その主たる用途によつて判定さる、であります。

次に床面積であります。これは所謂床上の意味で
はなく、家屋の広さのことであり。その計算は、
外壁あるものは外壁又はこれに代るべき柱の中心線内
の面積によることになつて居ります。例外として、停
車場の上屋、四つ足門等は、その上屋の占めている部
分の面積によつて計算致します。地階二階等は、各別
に計算して一階の面積に合算します。この場合、天井
と床の間五尺未満のものは平家としてその坪数は床面
積に加へませんが、評価に當つては、普通のものは、

その該当面積に平家一坪当り評価額の三割を見て平家
の評価額に加算致して居ります。

評価と申しますが、この評価は売買価格でもなく、
又所謂譲渡しの価格でもありません。その場所において
そのまゝ、利用し得る状態の適正なる時価を指すのであ
ります。これは言ふには誠に簡單であります。が、實際
には非常に困難な仕事であると考へざるを得ないので
あります。

今回行はれた評価の方法は、地方賦税委員会の指示
に基き、本年一月一日の現在の家屋に対し同日現在の
建築材料、設計料、労金、運賃（手伝人夫、自家労力
食料及び自己所有の材料も凡て価格に換算する）等の
価格により、新たに建築した場合の総価格、即ち再
建築価格を見積り、それより別表の損料歩合を控除し
て、これを評価額とする方法を取つたのであります。

農家の居宅に対しては、元來農家の建築が作業場兼
帯のものが多く、現在では相当の遊休設備ありとの観
点より特に評価額の認定によつてそのまゝ、ツバリの価
格でなく、現住人員一人当り四坪の割合によつて計算
した坪数と、普通居宅として必要な平均坪数二十六坪

を加へ、これを二分した坪数を必要面積とし、それに再建坪当り単価を乗じ、又居室の総面積より必要面積を差引いた残面積を遊休設備と見做し、前記坪当単価より大体四割程度を引いた単価をこれに乘じ各々その得たる積加へてその家の再建価格とし、それより損耗度を差引いた額が評価格となるわけでありませう。

今居室総面積五十坪 家族五人 再建坪当り一万五千円の農家の計算式を示せば次の通りであります。

坪当単価 (必要面積) 再建坪当単価
 $(26坪 + 4坪 \times 5) \div 2 = 23坪$ $15000円 \times 23坪 = 345000円(A)$

総坪数 必要面積 再建坪当の面積引
 $50坪 - 23坪 = 27坪$ $9000円 \times 27坪 = 243000円(B)$

$A+B = 588000円$ この家が大成村の他の再建価格
 の下 7% 引のものとするは

$588000 \times 30\% = 176400円$ (積算額とは異なる)

この方法は農家の居宅に付いてのみでありませうので、異れくも誤解等のないようお願い致します。

建築材料等の価格及数量労金等をどの位に見るのみでありますか、余曰くありませんので左に東京都下農村において専門の技術者が見積つた坪当り一万五千円級の農家の坪当り見積りを御覧に供し筆を揃へ事に致します。

大塚家屋敷調査農家

級別	級外	15000円以下	計
内訳	級別	単価	数量
給排水設備	1	式	180
仮設工事費	1	式	500
基礎工事費	1	式	800
木工費			
見立脚柱	2,000	1石	2,000
見立脚柱	2,700	1石	5,700
造作材	2,500	0.8坪	2,000
大工工費	450	3人	1,350
薪人工費	400	25人	200
釘金物	300	0.6坪	180
煙管	1	式	200
屋根工事費	1,000	1.6坪	1,600
柱工事費	700	1.5坪	1,050
建具工事費	800	1.5坪	1,200
敷物工事費	1,000	0.7坪	700
硝子工事費			
硝子工事費			
電気工事費	1	式	200
雑工事費	1	式	200
備考	階高として最も高層の級別を以てし、又は積算として算出された積算額とする。		

大塚家屋敷調査農家

家屋の状況

年次	家屋の状況	調査年次
甲	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	2年次
乙	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	2年
丙	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	5年
丁	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	6年
戊	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	9年
己	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	13年
庚	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	19年
辛	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	20年
壬	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	24年
癸	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	28年
子	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	32年
丑	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	36年
寅	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	40年
卯	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	44年
辰	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	48年
巳	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	52年
午	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	56年
未	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	60年
申	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	64年
酉	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	68年
戌	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	72年
亥	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	76年
子	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	80年
丑	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	84年
寅	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	88年
卯	再建後の又は家賃の増減と表に示す通りである。	92年

電話室

村から家庭へ——
家庭から村へ——

- ◇ 九月廿五日——農業委員会第二回目の会合が農地問題 其の他につき開催された。
- ◇ 村会招集——九月廿九日村議会が開かれて、別掲の議案が審議された。
- ◇ 固定資産評価審査委員——九月廿九日左記の三名が委員として選任された。
- ◇ 酒井作衛(上境) 菊地民雄(松塚) 柳沢春一(吉瀬)
- ◇ 藤沢勘兵衛氏——は、新治郡農業委員協議会々長に選任された。今後の活躍が期待されます。
- ◇ 稲作検見——小陸稲の検見と被害の評価を兼ねて、十月二日、農業委員 評価委員合同の一斉検分が実施された。
- ◇ 秋季慰霊祭——戦死者のため同胞援護会の主催による秋季慰霊祭は、九月廿五日於日輪寺開催された。
- ◇ 白菜視察団——十月六日稲敷郡駒米村、立花村から、十月八日眞壁郡中村より有志多数来村。
- ◇ 十月十日——新治郡町村議会議長会主催にて、土浦

- 市に開かれた、町村会議員自治講習会に、岡田議長外十五名出席す。
- ◇ 白菜巡回相談——十月十一日より三日間、下記四名に依つて、白菜に対する各部落巡回相談が実施された。(豊島実、沼尻久好 大久保四郎三郎 藤沢達)
- ◇ 麥作講話会——十月十六日、公民館に於て、普及技術員の高野技師を招き 麥作に関する座談会開催
- ◇ 園芸協議会——十月十七日、農協園芸協議会が開かれ、本年度の白菜出荷態勢並に白菜の規格及自治検査の方法が協議決定された。
- ◇ 調査課長等来村——読売新聞社主催の、新生活運動コンクールに参加した本村婦人会並に一般村、状を調査のため、十月十七、二十日の両日、村田調査課長 壬手社会教育課主事、読売水戸支局長橋本氏等来村す
- ◇ 一泊視察——十月十八日統計調査員十三名は東京郡内各種機関視察のため一泊にて上京
- ◇ 納税完納運動——十月廿一日、納税協力委員会開催 村税完納運動につき協議した。
- ◇ 公民館視察団——東茨城郡上中妻村より約三十名は、十月十九日日本村公民館視察のため来村

結球白菜選別並荷造規格表

榮農協園芸部

等級	綴纏荷札色分け	選別標準	一包詰 正味量	容器及荷造法
特松	赤	結球良好病虫害その他 損傷なきもの 1ヶ重量 750匁以上	6貫目入 (但し5分増) 8個以下	○規定の竹箆、荷札、掛繩、色藁 編纏使用 2寸5分 2寸5分
松	青	同上 1ヶ重量 500匁以上	同上 9個~12個	一尺四寸 1尺7寸 二本繩ふち掛
竹	赤	同上 1ヶ重量 400匁以上	同上 13個~15個	
梅	白	同上 1ヶ重量 300匁以上	同上 16個~20個	等級別色繩一本掛 二本繩最後に掛ける
花	白	不良品 小球のもの	同上	

編輯後記

昨年の十一月三日、文化の日をトして誕生した、広報「さかえ」は創刊一週年を迎へて、愈々、仕事の大と使命の重を加へて参りました。更に新しい第二年度の飛躍のために、再誠の熱意と卒直なる鞭撻とを期待して止みません。本号はお約束通り、文化祭の記事を盛りまして、創刊記念号に代へることにしました。来月号からは一層の創意と工夫を加へて、広報本来の使命達成に力を傾けてゆく所信です。

「さかえ」 第二巻 第三号

昭和廿五年十一月三日創刊
昭和廿六年十一月一日印刷
昭和廿六年十一月三日発行

編輯人 栄村公民館広報委員会

印刷人 土浦市城中城町九二
かすみ 騰 字 堂
電 四八九番

発行人 栄村公民館長飯島吉茂